



今持っているモバイルバッテリーは安全ですか？

スマートフォンやタブレットの普及により、外出先で充電ができるモバイルバッテリーを持ち歩く方が増えています。特に、都内などの遠方へ出かけるとき、目的地や高速バスなどでの移動中にモバイルバッテリーを使う機会が多いかと思います。今持っているモバイルバッテリーが安全か、正しい取り扱いができているか、この機会に確認しましょう。

モバイルバッテリーの発火はなぜ起こる？

モバイルバッテリーには「リチウムイオン電池」が使われています。リチウムイオン電池の内部は燃えやすい液体で満たされており、プラス電極とマイナス電極が薄い膜で仕切られています。この薄い膜が、電池に強い衝撃や圧力によって破れてしまい、プラスとマイナスの電極が直接接触し合うことで、内部で激しい異常発熱が始まり、発火に至ります。

また、リチウムイオン電池を高温になる場所に放置することで、内部の燃えやすい液体が異常に化学反応をおこし、発火する恐れがあります。

モバイルバッテリーを安全に使うための4つのポイント

破損している、膨らんでいるものは即処分！

写真のように破損しているもの、膨らんでいるものは、即処分するようにしましょう。目に見えて壊れているモバイルバッテリーは、いつ発火してもおかしくありません。



車内など高温の場所に長時間放置しない！

車内は、日光からの熱が逃げにくく、過ごしやすい気温の日でも高温になりやすい環境です。「この気温なら大丈夫だろう」と車内などに放置せず、必ず持ち歩くようにしましょう。



落下など強い衝撃を与えない！

アスファルトに落とすなどの強い衝撃は、モバイルバッテリーの内部の破損につながるので、丁寧に扱うようにしましょう。また、落下させてしまった場合は買い替えるのが安全です。



リコール対象か確認！

経済産業省のウェブサイト「製品安全ガイド」では、リコール対象となった製品を確認できます。今持っているモバイルバッテリーが対象になっていないか、確認してみましょう。



経済産業省
リチウム電池使用製品
リコール情報

航空機やバスに乗るときには預け荷物ではなく手元で管理を！

最近では、公共交通機関内でモバイルバッテリーが原因の火災事故が相次いでいます。このような状況から、航空会社の多くは、飛行機内のへ持ち込みを「160Wh以下のものを一人2個まで」と制限しています。また、バス会社でも、モバイルバッテリーなどのリチウムイオン電池が使われている製品はトランク（床下荷物室）に預けず、必ず手荷物として持ち込み、手元で管理するよう案内しています。

モバイルバッテリーは「有害ごみ」で処分

壊れたり、不要になったモバイルバッテリーは必ず「有害ごみ」として処分してください。透明の袋に入れ、「有害ごみ」と明記してビン類収集日に出してください。ただし、熱や膨張などの異常があるものは直接環境センターへ持ち込んでください。また、一部メーカーでは、買い替え時の無料回収や割引などのサービスも行っています。